飯綱町の文化財の特質と課題－特別展からの逆照射－

富樫　均[1]・中村　芳人[2]

要旨

飯綱町町制 15 周年記念特別展「飯綱町の文化財」が開催され，指定等がなされている町の 33 件全ての文化財が一堂に集められ紹介された．特別展の開催と，観覧者へのアンケート調査結果等をもとに，町の文化財の特質をまとめるとともに，ふるさとの文化財の保護と活用，今後の課題について考察した．

キーワード：飯綱町，文化財，町制 15 周年記念特別展，ふるさとの文化財

１　はじめに

飯綱町は長野県北部の飯縄火山東麓に広がる人口約１万人の町である．農業を主産業とし，田畑と森林が町の大半を占めるのどかな農村地域で，2005 年に旧牟礼村と旧三水村の二村が合併し，新しく飯綱町が誕生した．2020 年に町制 15 周年を記念する特別展「飯綱町の文化財」が企画され，新型コロナウイルス禍により１年延期されたものの，2021 年秋に開催された．本稿では町の特別展開催と，観覧者を対象に行ったアンケート結果等から，この町の文化財の特質と人々の文化財への意識等をまとめ，併せてこれからの地域における文化財保護のあり方を考察する．

２　いいづな歴史ふれあい館と特別展「飯綱町の文化財」の概要

いいづな歴史ふれあい館の前身は旧牟礼村が 1998 年に開設した３階建ての博物館「むれ歴史ふれあい館」である．2005 年の二村合併により「いいづな歴史ふれあい館」に名称が変わった．展示の主テーマは地域の歴史で，３階には周辺の山と里の景観を望む展望室「五岳の部屋」があり，最

表１　特別展「飯綱町の文化財」の概要

会　期	2021 年 9 月 26 日（日）～ 11 月 28 日（日）　64 日間 (休館日を含む)
会　場	いいづな歴史ふれあい館　２階企画展示室「創起庵」
主　催	飯綱町教育委員会・いいづな歴史ふれあい館
関連行事	・連続文化財講座（5 月～ 12 月，全 14 回開催；会場 歴史ふれあい館） ・特別展記念講演会（9 月～ 12 月，全 3 回開催；会場 苔翁寺，町民会館） ・文化財現地見学会企画（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
特別展図録	図録「飯綱町の文化財」編集委員会 編著 A4 判全 97 ページ「飯綱町の文化財」の刊行（2021 年 3 月）
会期中の観覧者数	585 名
連続講座参加者数	195 名（感染症拡大防止のため各回を町民限定 15 名定員として開催）
特別講演会参加者数	163 名（・9 月第 1 回町民限定は 40 名定員，・10 月第 2 回は町民限定 100 名定員・12 月第 3 回は地域制限なし 100 名定員として開催）
広報手段・依頼先等	・いいづな歴史ふれあい館だより（3 月に町内全戸配布） ・案内チラシ（9 月に町内全戸配布）・ポスター　・新聞取材（3 紙より） ・町広報紙への掲載と防災無線放送　・館ホームページ掲載　等

1　いいづな歴史ふれあい館　〒 389-1211　飯綱町大字牟礼 1188-1
2　いいづな歴史ふれあい館協議会長・飯綱町文化財調査委員長　〒 389-1211　飯綱町大字牟礼 1188-1

表２　飯綱町の文化財一覧（2021 年特別展）

国登録文化財

No.	種別	名称	員数	所有者	所在地（大字）	展示方法	摘要
1	有形文化財	三水第一小学校茶室 （法母庵 － 三水小学校茶室）	1 棟	飯綱町	普光寺	写真パネル 間取平面図	

長野県指定文化財

No.	種別	名称	員数	所有者	所在地（大字）	展示	摘要
2	県宝	永正地蔵尊及び石龕 附　五輪塔３基　板碑型石塔２基	1 基	飯綱町	牟礼	写真パネル	
3	天然記念物	地蔵久保のオオヤマザクラ	1 本	飯綱町	地蔵久保	写真パネル	
4		袖之山のシダレザクラ	1 本	飯綱町	袖之山	写真パネル	

飯綱町指定・認定文化財

No.	種別	名称	員数	所有者(保持者)	所在地（大字）	展示	摘要
5	有形文化財	普光峻徳神社境内社白山社社殿 附・御幣立・棟札	1 棟・2 点	普光峻徳神社	普光寺	写真パネル	
6		高札	2 点	飯綱町	－	実物と写真	
7		相撲免許	2 点	倉井区長	倉井	実物	付 化粧まわし展示
8		赤塩焼 - 製陶・煉瓦関連資料	997 点	小林講和	赤塩	実物と写真	抜粋展示
9		注口土器	1 点	飯綱町	－	実物と写真	
10		懸仏	1 点	健翁寺	芋川	実物	厨子を含む
11		大方儀	1 点	外山吉恵	芋川	実物	
12		高山寺加賀藩関係文書	26 点	高山寺	－	実物	会期中入れ替え
13		北国街道牟礼宿文書	5 点	牟礼区 牟礼神社	牟礼	実物	会期中入れ替え
14		丸山遺跡出土縄文土器	4 点	飯綱町	－	実物	常設展示を兼ねる
15		木造親鸞聖人像	1 躯	願法寺	古町	実物	
16		木造阿弥陀如来立像	1 躯	願法寺	古町	写真パネル	
17		苔翁寺山門 附・棟札	1 棟・4 点	苔翁寺	芋川	写真パネル	
18		苔翁寺仁王像 附・高札	2 躯・1 点	苔翁寺	芋川	写真パネル	
19		絹本著色九字名号	1 幅	彦坂宗雄	平出	実物と写真	実物展示期間限定
20		佐々木文山書　飯綱大明神扁額	1 点	高岡神社	川上	実物と写真	
21	無形文化財	願法寺の絵解き 附・絵解き用具一式	1 件	日野多慶子	古町	動画・パネル・絵解き用具	
22	史跡	芋川氏館跡	1 件	森晃一	芋川	写真パネル	付 出土品展示
23		若宮城址	1 件	安藤正子	芋川	写真パネル	
24		野田喜左衛門の墓	1 基	上赤塩組	赤塩	写真パネル	
25		四ツ屋一里塚	1 対	牟礼神社	牟礼	写真パネル	
26		武州加州道中堺碑	1 基	飯綱町	小玉	写真パネル	
27		庚申塚古墳	1 基	飯綱町	平出	写真パネル	
28	天然記念物	高岡神社の杉	6 本	高岡神社	川上	写真パネル	
29		トウギョ及びその生息地	3 箇所	宮川芳夫 廣瀬晃一 高野榮	平出 平出 袖之山	写真パネル・動画	
30		舟石	1 点	飯綱町	袖之山	写真パネル	
31		高坂りんご	2 本	米澤紀之	柳里	レプリカ・写真	
32		黒川桜林のエドヒガン	1 本	飯綱町	黒川	写真パネル	
33		四ツ屋のエノキ	1 本	柳澤博見	牟礼	写真パネル	

上部に口径 350 ｍｍの反射望遠鏡を備えた天体観測室がある．名称は町名を冠して変わったが展示内容等は一部を除き未改修で，施設や機能のリニューアルが課題となっている．町制 15 周年記

念特別展は，牟礼地区，三水地区で措定等がなされている 33 件の文化財全てを一堂に集め，全体像が紹介される初の機会となった．

特別展の概要を表 1 に，紹介した文化財一覧を表 2 に示す．33 件の文化財の内，会場で実物展示ができたのは 12 件（36％）で，その他は写真パネル 18 件（55％），動画とパネルによる展示 2 件，レプリカとパネルによる展示 1 件であった．

天然記念物や史跡等，会場に持ち込むことができないものがあり，展示の半数以上は写真パネル等による紹介となった．それでも実物展示のうち町所有の 2 件を除く 10 件については，所有者のご理解とご協力のもと実物展示が実現し，貴重な観覧機会となった．たとえば親鸞聖人御真筆と伝わる「絹本著色九字名号」は，館として初めての展示であった．なお，木造親鸞聖人像と懸仏（厨子を含む）については，寺宝とされる比較的大きな文化財であることから，会場への搬出入を美術品専門の運送業者に依頼する等，事故防止に万全を期した．

特別展開催にあたり，参加・体験型の観覧につながる工夫の一つとして，観覧者にその場で感想等をアンケート形式で答えていただいた．あらかじめ文化財の写真をデザイン化した缶バッチを用意し，アンケートの回答と引き換えに手土産として配布した．その効果もあり，会期中の観覧者 585 名中 395 名の方より回答をいただき，アンケート回収率は 67.5％となった．

アンケートから観覧者の概略の属性をまとめた結果を図 1 に示す．観覧者の居住地内訳は，町内在住者が 60.1％，県内他市町村からの来訪者が 30.3％で，県外者は 9.6％であった．観覧者の年齢は 60 ～ 70 代が 33.4％でもっとも多く，次いで小学生以下の 22.2％，高校生 15.1％，40 ～ 50 代 14.1％と続いた．

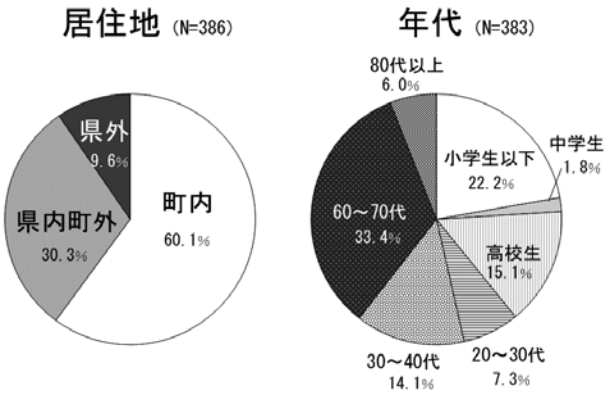

図 1　特別展観覧者の居住地と年代の内訳

3　飯綱町の文化財の特質と特別展の成果

3-1　町の文化財の特質

町の指定等文化財 33 件を主な特徴からグループ分けした結果を図 2 に示す．指定の内訳は国登録 (1)，県指定 (3)，町指定 (29) で，これらは「有形」「無形」「天然記念物」「史跡」の 4 つのカテゴリーに分けられる．33 件は，1969 年（昭和 44）から 2018 年（平成 30）までの間に旧二村や新町等が指定等をすすめてきた結果の数である．文化財の分布はほぼ全町内にわたり，時代的には飛鳥～平安時代の一時期を除き，原始以前から近現代までの多種多様な内容をもつ．

文化財は，旧北国街道沿いに置かれた宿場「牟礼宿」に象徴されるように，交通との関連史料や，中世以降の浄土系の仏教信仰や飯縄山の山岳宗教を源とする飯縄信仰等に関連する文化財が少なくない．これには，この地が古くから日本海と内陸を結ぶ往来や物流の動脈上にあり，かつ全国的に知名度の高い善光寺や聖地とされた飯縄山・戸隠山麓に近いという地理的・社会的な影響がある．また，現代の暮らしの基層に縄文時代早期以降の遺跡や古墳，中世の館跡など，長きにわたる人の営みが存在したことも特徴的である．さらに「舟石」や「高坂りんご」など，火山活動に伴う地変の痕跡や希少な和りんごの品種などは，この地ならではの個性的な天然記念物となっている．

有形文化財
（18件）

【建造物】
- ≪国≫「法母庵」（茶室）
- 白山社社殿
- 苔翁寺山門

【美術工芸彫刻】
- 懸仏
- 木造親鸞聖人像
- 木造阿弥陀如来像
- 苔翁寺仁王像
- 九字名号　・大方儀
- 赤塩焼
- 飯綱大明神扁額

【考古資料】
- 注口土器
- 丸山遺跡土器

【古文書】
- 相撲免許
- 高札
- 北国街道牟礼宿文書
- 高山寺加賀藩文書

【歴史資料】
- ≪県≫永正地蔵尊

無形文化財
（1件）

【仏教芸術】
- 願法寺の絵解き

史跡（6件）

【史跡】
- 芋川氏館跡
- 四ツ屋一里塚
- 野田喜左衛門の墓
- 若宮城址
- 武州加州道中堺碑
- 庚申塚古墳

天然記念物
（8件）

【植物】
- ≪県≫地蔵久保オオヤマザクラ
- ≪県≫袖之山シダレザクラ
- 黒川桜林のエドヒガン
- 高坂りんご　・高岡神社の杉
- 四ツ屋のエノキ

【動物（魚類）】
- トウギョ

【地質鉱物】
- 袖之山の舟石

図２　飯綱町の文化財の類型分け（《国》：国登録　《県》：県指定　それ以外は町指定）

3-2　特別展の成果

⑴　図録「飯綱町の文化財」の刊行

特別展開催にあたり町内の全文化財について統一的に記載された基礎資料の整備が必要不可欠であった．そのために刊行されたのが図録「飯綱町の文化財」である[1)]．編集に携わった『飯綱町の文化財』編集委員会は，町教育委員会が事務局を担い，10 名の有識者からなる町文化財調査委員会といいづな歴史ふれあい館職員（館長・学芸員）で構成され，編集・執筆を行った．新型コロナウイルス禍の第 1 波が収まりかけた 2020 年 7 月から編集を開始し，同年 12 月までの約半年間で 6 回の編集委員会と 19 回の編集委員会分科会（A,B）を開催した．

紹介した文化財には，合併前の旧村時代に指定等がなされたものが多くある．そのため，すべての文化財について指定根拠に関わる資料が同じように揃っているわけではなかった．指定年代が古く説明や記載がわずかなものや，記載形式が不揃いなものも少なからず含まれていた．そのため，文化財 1 件に見開き 2 ページを割り当てることとし，まず各文化財について写真とともに同一形式で指定年月日・所在地・所有者・寸法などの基本事項を整理し，併せて文化財指定理由と評価を 400 字程度の簡潔な文章にまとめ，それらを 1 ページ目に記載した．次に，一般の人が町の文化財に親しみをもてるように，歴史的な背景や逸話，注目すべき事項などを比較的自由なレイアウトと平易な表現で解説し，それらを 2 ページ目に収めた．

2020 年度は，新型コロナウイルス禍により種々の活動制限を余儀なくされた反面，予定以上に図録編集に集中することができた．その結果，多くのカラー写真を盛り込んだ A4 判 97 ページの図録「飯綱町の文化財」が完成した．これは，特別展

開催以降も長く町の文化財に関する基本資料として，保護と活用に役立てられるものと期待する．

編集委員会が編集に込めた願いと確認した留意事項を以下に示す．

＜編集に込めた願い＞

・文化財１点１点の歴史的意義の再確認・再発見につながること
・若い人たちがこの資料を契機として町の歴史や文化に関心をもってくれること
・「町の大切な宝」が未来の飯綱町に継承されること
・さらに研究が深められ，未だ埋もれている文化財の発見につなげられること

＜編集にあたっての留意事項＞

・史実と推測や伝承とをはっきり区別して記述すること
・歴史的な専門用語には解説やふりがなをつけ，可能な限り平易な表現にすること
・文化財に関連した研究成果を紹介し，主要な参考文献を付すこと

⑵　特別展の開催

開催趣旨に沿って，観覧者の動線，展示ケース配置，実物とパネル等のバランス等を考慮した展示計画を作成した．計画にあたっては，歴史ふれあい館が提示した原案に文化財調査委員や歴史ふれあい館協議会委員，そして展示ボランティア等の意見が盛り込まれた．以下にその概要を示す．

①　特別展の趣旨

町の文化財を通してこの町の歴史や文化の多様性や地域的な共通性を感じてもらうこと．長い歴史と個性ある文化をともに育んできた地域であることへの共通認識により，住民の一体感の醸成に役立つような展示を目指す．

②　展示デザイン

カテゴリー別や，年代を基準にした系統的な展示は内容の幅広さから困難であったが，多種多様な文化財を以下の考えのもとに配置した．最終的な展示配置を図３に，配慮事項を以下に示す．

・入り口付近においては，展示空間への導入を印象づける演出を行う．
・展示冒頭に 33 件の文化財の名称・写真・所在地案内図・年代分布表を示し，町の文化財の全体像を紹介する．
・ハイライト展示となりうる文化財を会場中央に効果的に配置する．
・部屋や什器設備，観覧者の動線・視線，展示方法のバランスに配慮．
・共通性のある文化財は極力並べて展示し，可能な限りのまとまり感を出す．
・全ての展示に「一般向」と「こども向」の２種類の説明を併記する．
・特別展の一部の展示については，既存の常設展示と関連づける．
・アンケート等を通して観覧者の文化財への意識把握に努める．

⑶　特別展関連行事と特別展の副産物

特別展は準備から開催に至るまで，新型コロナウイルス禍の影響を受けた．会期の１年延期に加え，準備会議の制約や，講座の規模と参加者の対象範囲（町内限定など）や参加人数の制限などを余儀なくされた．天然記念物や史跡等の文化財を対象にした現地見学会も予定されたが，町のマイクロバスの使用制限等により実施できなかった．以下に関連行事と，副産物のようにして生起した出来事を紹介する．

①　連続文化財講座（全 14 回）の開催

町の文化財への理解を深めていただくため，2021 年５月～ 11 月にかけて，２回 / 月の頻度でいいづな歴史ふれあい館内で連続文化財講座（全 14 回）を開催した．１回の講座につき２～３件の文化財を取り上げた．感染症拡大への警戒を念頭に町民限定，定員 15 名の制限を設けた．いいづな歴史ふれあい館職員が交代で講師兼進行役を務めるとともに，文化財調査委員や有識者をゲストスピーカーとして招き，なごやかな雰囲気の中で講座を実施した．受講者の反応は良く，予約は定

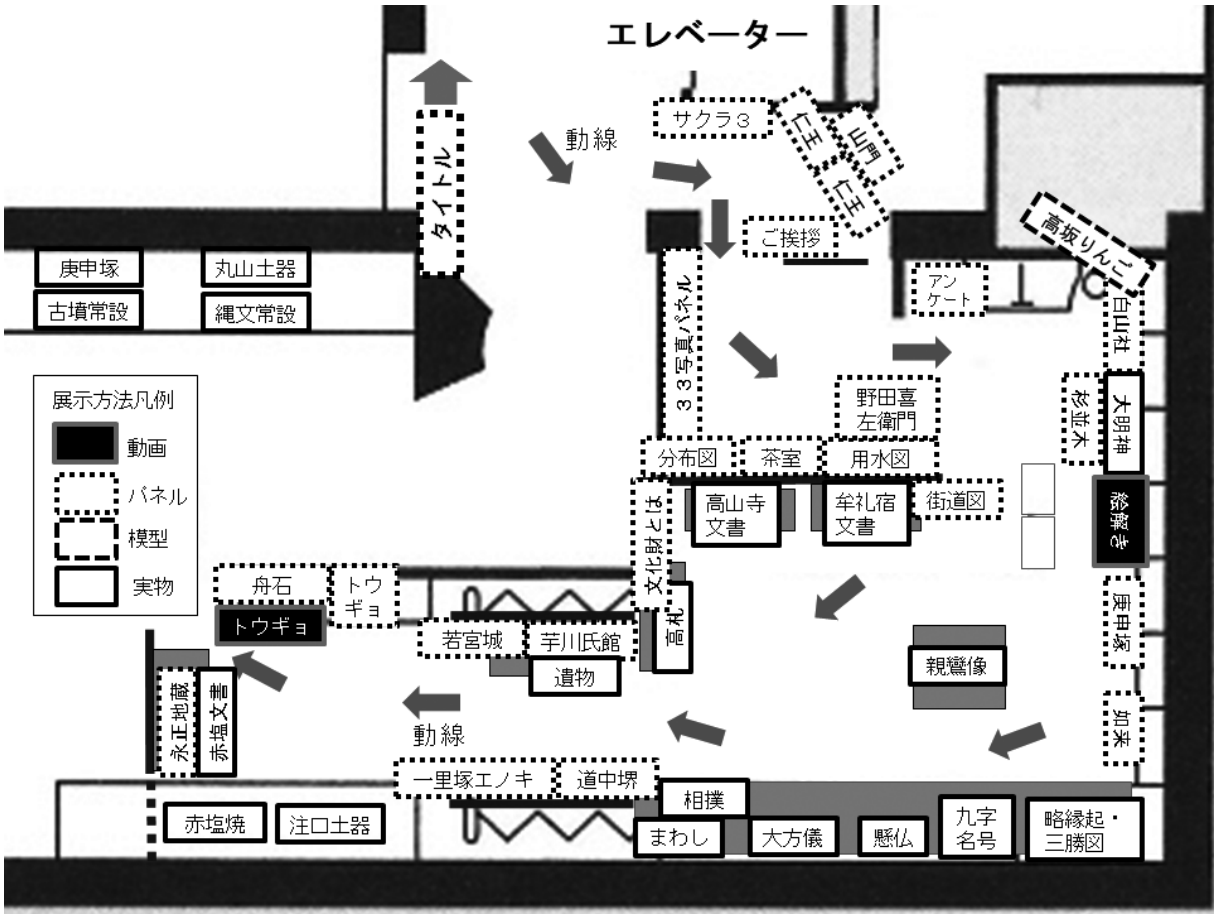

図３　特別展の展示計画（展示配置最終案）

図４　特別展会場の様子（1）

図５　特別展会場の様子（2）

員を上回り，毎回ほぼ定員一杯の参加をいただいた．

②　特別展記念講演会（全３回）の開催

特別展にちなみ，関連するテーマで３回の記念講演会を企画した．ちょうど令和元年(2019)に「苔翁寺山門」の大規模な修復が行われたこと，牟礼・三水両地区の代表的な縄文土器が展示紹介されたこと，また町のシンボル飯縄山の形成史につながる「舟石」の紹介との関連から，以下のテーマと講師による記念講演会を開催した．

【第１回】「苔翁寺山門 - 修復成果を含めて -」吉澤政己氏（NPO 法人 信州伝統建造物保存技術研究会理事長）

【第２回】「縄文時代の飯綱町」綿田弘実氏（長野県埋蔵文化財センター調査指導員）

【第３回】「火山灰からわかる飯綱町周辺の成り立ち」竹下欣宏氏（信州大学准教授）

なお，第２回と第３回の講演内容の一部は後日原稿に起こされ，いいづな歴史ふれあい館紀要９に掲載された[2) 3)]．

③　文化財保護に関わる新たな展開（副産物）

以下は，特別展開催がもたらした副産物といってよい出来事である．

・図録編集過程において一部の文化財の指定名称や内容の見直しと変更が行われ，現在の知見による再評価がなされた．（名称の変更例：(旧名称)「紙本墨書牟礼神社古文書」→（新名称)「北国街道牟礼宿文書」,(旧)「赤塩焼」→（新）「赤塩焼－製陶・煉瓦関連資料」,（旧）「小玉道中堺碑」→（新）「武州加州道中堺碑」など）

・町無形文化財「願法寺の絵解き」は日野多慶子氏が唯一の無形文化財保持者となっていたが，特別展会期中にご子息の日野瑞賢氏による「絵解き」口演が本堂で披露され，瑞賢氏が二人目の無形文化財保持者（後継者）として正式に認定されることとなった．

・町有形文化財「相撲免許」関連史料として，赤塩地区の故田中信吉氏が昭和30年（1955）頃まで使用したとされる「化粧まわし」を借用することができた．相撲免許と並べて豪華なつくりの化粧まわしが展示されたことにより，かつての村相撲の華やかさを多くの人に実感していただくことができた．

・図録編集に伴い，町天然記念物「トウギョ」の指定理由が再整理された．併せて，袖之山区集落創生事業の一環として，区より現地調査の提案があった．いいづな歴史ふれあい館が陸水生態を専門とする外部研究者と区との連絡調整にあたり，2021年8月にため池等の現地調査が行われた．これは平成20年(2008)以来のトウギョ生息状況調査となり，調査の結果現在も自然状態でトウギョが生息し，かつ繁殖していることが確認された．

・国登録文化財の茶室「法母庵」は小学生の茶道体験授業で活用されているが，これまで一般への開放はほとんどなされてこなかった．特別展会期中，地元有志による「いいづな町のお宝を楽しむ会」の発案と企画により，「法母庵」でのお茶事会が開催された．歴史ある「茶室」を使った茶道体験は，文化財の価値への理解を深めるよい機会となった．

4　特別展への感想・意見

アンケート調査においてはQ3「特別展の感想」，Q4「一番気になった文化財」，Q5「新たに指定をしたいと思う文化財」を質問した．以下にその結果を示す．

まず特別展への感想として，回答のほとんどが「興味深く楽しめた」,「勉強になった」，あるいは「初めて知った」というもので，総じてとても好評であった．中には「年代順に展示して欲しい」,「解説文の位置を高くしてほしいものがある」,「ビデオの音量が小さい」といった不満や要望もあった．年代順の展示については，3-2⑵②に述べたように対応困難であったが，音量等については可能な限り速やかに改善をはかった．

Q4とQ5についてまとめた結果を表3，表4に示す．表3の回答にみるように,「気になった文化財」としてとび抜けて多くの票を集めたのは「木造親鸞聖人像」であった．その他，得票順位の高いほうから「高坂りんご」「トウギョ」「絵解き」「懸仏」と続いた．特定の文化財に多くの票が集中した理由としては，実物そのものに迫力があったり，動画展示による効果があったり，あるいは観覧者・回答者の年代に偏りがあったりと，様々な要因やバイアスが関係したと考えられる．そのため,「票を集めた」順位が単純に文化財としての人気の高さや価値を意味するわけではないことに留意する必要がある．票が集中したものがある一方で，順位が下ると票が分散したとみられる側面もあり，見る人の興味関心に応じて「気になる文化財」は様々だったともいえる．一方，写真パネルのみの展示でも実物以上に多くの注目を集めた場合もあった．得票がほとんどなかった文化財もあったが，もちろん展示方法や解説内容の工夫次第では印象が変わった可能性がある．また,「高坂りんご」や「茶室」など小学校の授業等で見聞きしたことがある文化財に票が集まったと思われる例もあった．そのこと

表３「気になった文化財」への回答（上位 13 位まで）

順位	No.	略称	カテゴリー	得票	展示方法	摘要
1	15	木造親鸞聖人像	町有形	71	実物展示	四方から観覧できる展示ケースを用意
2	31	高坂りんご	天然記念物	31	レプリカ	アップルミュージアムより借用
3	29	トウギョ	天然記念物	25	パネルと動画	産卵シーンの動画も併せて展示
4	21	絵解き	町無形	24	パネルと動画	記録ビデオを併せて展示
5	10	懸仏	町有形	22	実物	懸仏が納められた厨子を含めて展示
6	9	注口土器	町有形	19	実物	小形だが完形の実物の土器を展示
7	11	大方儀	町有形	17	実物	組み立てた状態で展示
8	16	阿弥陀如来	町有形	14	パネル	美しい衣紋の写真も併せて紹介
8	13	牟礼宿文書	町有形	14	実物とレプリカ	常設展示と関連した展示
9	30	舟石	天然記念物	13	パネル	常設展示と関連した展示
10	1	茶室「法母庵」	国登録有形	12	パネル	部屋の平面図も併せて紹介
11	7	相撲免許	町有形	10	実物	地元力士の化粧まわしも併せて展示
11	19	九字名号	町有形	10	実物（期間限定）	実物は１週間の期間限定展示とした
12	8	赤塩焼	町有形	9	実物とパネル	陶器ならびに関係文書
13	22	芋川氏館	町史跡	7	パネル	発掘された出土品も併せて展示
13	23	若宮城址	町史跡	7	パネル	
13	27	庚申塚古墳	町史跡	7	パネル	

表４「新たな文化財として指定したいもの」回答のまとめ

複数人からの重複提案	提案者	摘要
・化粧まわし	小学生複数	小学生に人気、説明の影響？
・やたら	小学生複数	郷土食に関する授業の影響？
・矢筒山	小学生と一般複数	山城跡を含む
・古民家	一般複数	具体的な物件については不明
・塩沢峠	一般複数	現在は廃道（通行止）

ユニークな提案（参考）	提案者	摘要
・飯縄山	小学生	発想が大きい
・星空	一般（県外 40 ～ 50 代）	発想が大きい
・断層露頭	一般（町外 40 ～ 50 代）	これまでにない提案
・平出～袖之山ため池群	一般（町外 40 ～ 50 代）	希少生物種の保全のため

は，一度体験の記憶があると関心がより高まる傾向があることを意味している．

表４の「新たな文化財として指定したいもの」については無回答が多かった．「新たな文化財の推薦」は，多くの人がこれまで自分事として考えた経験がなく，答えること自体にとまどいや遠慮を感じたのかもしれない．複数の小学生から「化粧まわし」が提案されたが，たまたま今回の展示で「相撲免許（古文書）」の横に立派な「化粧まわし」が並べてあったが，現在文化財に指定されているのは古文書のほうのみであるという学芸員の説明を聞いたことにより，それが提案の動機になった可能性がある．また郷土料理の「やたら」[4] の提案も小学生からのもので，これには授業で行われた食育体験学習の記憶が提案につながったと思われる．

5　ふるさとの文化財がもつ価値と課題 ～考察にかえて～

5-1 「ふるさと」をどうとらえるか

ここで問題にするのは「ふるさと」がもつ意味である．たとえば詩人の室生犀星は，「ふるさと」を

「ふるさとは遠きにありて思ふもの　そして悲しくうたふもの　・・・(以下略)」

とした[5]．確かに「ふるさと」は目の前にないときほど鮮明にあらわれる不思議な存在である．存在の意味を含めて定義づけるならば，「ふるさとは，人の心の中にいつまでも実在する懐かしい風景」といえよう．普段習慣に流されているときは，日常を過ごす生活空間を「ふるさと」として意識す

ることはむしろ少ない．しかし，いざその地を離れ，違う日常に身を置くことになったとき，慣れ親しんだ場が「ふるさと」として心に立ちあらわれるのを私たちは実感する．無くして初めてその価値に気がつくような皮肉な存在が「ふるさと」なのかもしれない．

5-2　ふるさとの文化財は最初の“ものさし”

埋蔵文化財を除き，わが国には国指定等3万件余，県や市町村の指定等12万件弱の膨大な数の文化財があり，その数は年々変化し増加傾向にある[6)]．ひと口に文化財といっても，国宝や重要文化財にたいする一般の関心にくらべると，市町村指定等の文化財への一般の関心は決して高いとはいえない．しかし関心の低さを価値の低さに結びつけるのは早計である．なぜなら地方の小さな自治体が指定する文化財には，学術的な評価や金銭的な価値などとは別の次元で，人の心の中に実在する「ふるさと」に結びつく事物としての特別な意味や価値があるといえるからである．

物心ついた頃から，人は何か怖いもの，安心できるものなどを感じて育つ．美醜や喜怒哀楽など絶対評価が難しいものについても，自身の経験の範囲内で相対的な比較をしながら対象を測り，相手を知ったつもりになる．世界の広さや多様さへの理解も，個々の経験のつみ重ねがあってこそ可能になる．その意味で，生まれて初めて出会うふるさとの事象は，人にとって「世界を測る最初の“ものさし”」となる．つまり，ふるさとを深く知ることは確かな“ものさし”を手に入れることを意味し，良い“ものさし”を持てば世界はより鮮明に見え，人生はより豊かなものとなるであろう．「ふるさとの文化財」に触れることは，人が社会性を育むための貴重な学習機会になり，それら文化財は総合学習のキーワードにもなりうるものである．

身の周りには地域固有の自然や歴史があふれているが，インターネット検索でアクセスできる情報は，数は多くても玉石混淆である．良質な情報に最短で近づくには，信頼できる手がかりが欲しい．実はその手がかりになりうるものがふるさとの文化財ではないかと考える．指定等がなされた文化財には「有形」・「無形」，「史跡」，「天然記念物」などカテゴリー上の区別はあっても，①先人が発見し，②人々が価値を共有し，③大切に守られてきたという3つの共通性をもつ．逆に①②③が保証されているからこその文化財である．地域を深く知るうえで，これほど確かな手がかりは他にないといえよう．

5-3　特別展から見えてきた課題

特別展では，町の多様な文化財の全てを一堂に集め紹介した．町制15周年記念としてそれが出来たのは，合併前からの先人たちによる文化財保護に向けた努力とその蓄積があったおかげである．加えて，地域を一体的に理解するのに，たまたま飯綱町がちょうどよい自治体規模であったという背景もあった．自治体がある規模以上に大きくなると，地域全体を扱う展示会は企画すること自体が困難になる．その意味では住民が一体となり力を合わせて地域づくりをすすめる際にも，適度な自治体規模にあることがひとつの強みになるだろう．では，今回の特別展の趣旨にあった「文化財を通してこの町をより深く知っていただくこと」は，どの程度達成できたであろうか．アンケート結果をもとに観覧者の6割が町民であったと仮定すれば，全観覧者数585名中の351名が町民であったと推計できる．新型コロナウイルス禍の影響があったとはいえ，これは町の総人口10,695人の内の3.3％にしかならない．3.3％をどう評価すべきかは難しいが，今回観覧した多くの人には好評であっただけに，もっと多くの町民に観覧して欲しかったというのが企画者の思いである．町の小・中・高校の児童・生徒数は約1,000人で，それだけでも総人口の約1割を占める．各校には教育委員会・校長会を通じて見学を呼びかけたが，結果的に見学はごく一部のクラスにとどまった．新型コロナ禍の影響ももちろんあったが，展示を学校教育に

生かしてもらう工夫も今後の課題としなければならない．また観覧者数が期待したほど伸びなかったことの背景には，特別展への関心以前に，「文化財」そのものに対する町民の意識の問題があった可能性がある．たとえば「文化財はただ古くて難しそうなもの」というような誤った先入観があるとすれば，改めて「文化財とは何か」という基本認識に立ち返り，地域の魅力や多様な価値に興味関心をもってもらうための様々な方策を練ること，そして行政や住民一人一人が自分事として地域を学び，主体的に地域の将来を共に構想する気運を盛り上げてゆくことが重要である．

文化財は公共の財産であり一部の専門家たちのものではない．それは身近なところから見いだされ，保護する人たちとともに育まれ進化していくものである．新たに発見される文化財がある一方で，様々な要因で失われてしまう文化財や知られていなかった価値が付加され再評価される文化財もある．飯綱町にはまだあまり知られていない価値ある事物や，価値は認められても指定のための環境が整っていないものなどが数多く存在するが，それらの中には，今後文化財に仲間入りするものもあるだろう．食や年中行事などの「生活文化」や，里山景観を含む「文化的景観」など，文化財の類型も時代とともに変化し範囲が拡がってきた[7]．表4に参考として紹介した「『飯縄山』や『星空』を文化財に」という提案などは，企画者が予想もしていなかった回答であり，新鮮な刺激を受けた．今後地域にとって真に大切なものが発見され将来に向けて護られていくためには，大きな視野や新しい発想を持つことも大事である．

地域の文化財は，郷土を知ろうとする人のために用意された「信頼できる知の扉」といってもよい．子どもから大人まで，多くの人たちが自らの手でその扉を開き，地域の自然，歴史，文化の広大な部屋に足を踏み入れていただけるよう，微力ながらこれからも努力をしていきたい．

謝辞

いいづな歴史ふれあい館学芸員の小山丈夫氏ならびに特別展の準備・開催にご協力をいただいた文化財調査委員会，歴史ふれあい館協議会，ボランティア有志の方々に深く感謝を申し上げます．また，貴重な文化財の展示に際して，ご理解とご協力をいただいた各文化財の所有者・管理者の方々に心からお礼を申し上げます．

文献

1）図録「飯綱町の文化財」編集委員会編（2021）町制15周年記念特別展図録「飯綱町の文化財」．97 p．飯綱町教育委員会．

2）綿田弘実（2022）縄文時代の飯綱町―丸山遺跡・小野遺跡・明専寺遺跡・茶磨山遺跡を中心に―．いいづな歴史ふれあい館紀要9．（印刷中）

3）竹下欣宏（2022）火山灰層とローム層から見た飯綱町周辺の大地の生い立ち．いいづな歴史ふれあい館紀要9．（印刷中）

4）宮本久子（2021）記憶で綴る昭和初期の北信濃―暮らしと日々の食事―．いいづな歴史ふれあい館紀要8，（11）－（19）．

5）岩波文庫「室生犀星詩集」（1983）岩波書店．

6）文化庁HP「文化財の紹介」URL:https://www.bunka.go.jp/bunkazai/shokai/（2022年2月確認）

7）文化庁HP「文化財保護法の一部を改正する法律について（令和3年6月）」URL: https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/pdf/93163001_01.pdf（2022年2月確認）